

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	ディドロ『エルヴェシウス『人間論』論駁』を読む										
[授業の概要・目的]											
<p>ディドロがエルヴェシウス『人間論』（1773年、没後刊行）の逐条的反駁として記した『エルヴェシウス『人間論』論駁』（1774～76年？）を精読し、この同時代を代表する二人の唯物論哲学者の意見の相違を解説しながら、啓蒙の世紀の人間論（感覚論・身体論）・教育論・道徳論・政治論の問題設定について理解を深める。その際、ロック、モンテスキュー、ルソー、ドルバックら、ディドロとエルヴェシウス両者がともに参照する哲学者たちの議論も適宜参照し、一八世紀の哲学的議論の布置にも留意する。また、「逐条的反駁」のかたちで、さまざまな実例を挙げながら、エルヴェシウスの体系的議論への懐疑を呈するディドロ独特の書き方にも注目して、ディドロ特有の唯物論や哲学的探究の方法についても考察を加えたい。</p>											
[到達目標]											
<p>近世フランス語の哲学・歴史文献の読解力を身につける。 18世紀フランスを中心とする近世西欧哲学（人間論・教育論・道徳論・政治論）の基礎知識を身につける。 一般に、思想史的な古典を精密に読解する手法を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>ディドロの『エルヴェシウス『人間論』論駁』（日本語の抄訳あり、エルヴェシウス『人間論』についても同様）の要所をフランス語原典で読み、学生の担当する日本語訳を検討しながら、授業を進めてゆく。取り上げられるのは以下のテーマである。その際、ロック『人間知性（悟性）論』、モンテスキュー『法の精神』、ルソー『エミール』、ドルバック『自然の体系』など、エルヴェシウス、ディドロの言及するさまざまな同時代の著作との関係についても解説を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディドロとエルヴェシウス：1750年代からの人間学を巡る論争 ・1770年代のディドロとエルヴェシウスの哲学的考察と政治論 ・18世紀感覚論・唯物論における感覚・知性と身体組織の関係 ・「生得的なもの」と「獲得されたもの」の境界：教育の可能性と限界 ・感覚・知性の一般性か（エルヴェシウス）、身体組織・天分の特異性か（ディドロ） ・個人と環境：エルヴェシウス「偶然」論とディドロの「状況」論 ・道徳の地位：エルヴェシウス「利害」の一般理論とディドロの「徳」論 ・教育と政治：エルヴェシウスの啓蒙専制擁護論とディドロの懐疑 ・哲学を書く：エルヴェシウスの「体系」とディドロの「対話的」書法 											
[履修要件]											
フランス語で原文を読む意欲がある者（ただし、適宜邦訳を参照してもらってかまわない）。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

通常授業でテキストの翻訳を担当してもらい、その達成度をもとに評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業参加者には、テキストの訳読の担当が求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。